

各地よりのたより

紀伊支部より

三月大阪例会席上、高城氏に御會ひした處、五月末に小槇支部長より、高城氏の努力により、本會々員で和高商學生山本靜雄君が中心となつて中村20種鏡を再び活用することになつた由、是非和高商と聯絡せられたしの快報があり、時こそ至れりと勇躍した次第、其後、和高商、花田校長に望遠鏡の事を照會せし處、「目下修理中」の御便りを戴き少々失望せしも、これは高城氏と山本君が交渉中だつたのだらうと今になつて思はれる。

六月以來何回となく山本君と往來して六月18日の映畫會(宇宙の驚異)には大阪支部高城、山形二氏、和歌山支部より阪田晃氏と小生の2人が参加し盛大であつた。その後で座談會あり、今後の合同が策された。

七月23日には火星觀望會を和歌山高商天文臺に於て開催する筈(曇天中止)にして、8年ぶりで活動する20種鏡については故中村氏も地下より嬉んで下さることと思ふ。

高商生は約30名程あり皆熱心な方のみ。協會員(紀伊支部)は10名であるが、元會員にして熱心に参加希望の方もあり將來有望である。

以下二三希望を述べておくと

- (1) 協會支部員、高商同好會員、一般希望者をひつくるための會の名前を決定したいこと
 - (2) この會の下に月例會を開くこと(月例會を開くことは決定せり)
 - (3) 和高商20種鏡を會員は極力利用すること(山本靜雄君と交渉済み)、専門家の觀測實地指導を願ひたし
 - (4) 將來講習會、觀測會を大々的に行ひたいこと(これについては高城さんも御話あり)
- 以上は七月23日の會席上決定したいと思ひます。(昭和14年七月16日記、野村秋馬)

北 滿 だ よ り

天の河が、白布をのべたやうに鮮かに仰がれる星ぞらの下を、體も冷えこむほどの六月の夜風に吹かれながら、トラックにしがみついて、やつと開拓團の本部に歸つて來ると、附近はすっかり寢靜まつて、國境の山も遠い感じだ。地

響きを立て、トラックが歸つて來ても、散在してゐる本部の分宿家屋で窓を開ける見るものもなく、一人として夜の安泰を信じないものはない。國境にはらむ風雲はどうか？（山田清三郎）

倉敷通信

去る七月28日に Rigollet 氏が光度8等の新彗星を赤經 $4^{\text{h}}54^{\text{m}}0$ 、赤緯 $+25^{\circ}45'$ の位置に発見したさうですが、之を見て私は思はず顔の赧くなるのを覚えしました。と云ふのは、去る26日の午前2時頃から約2時間このあたり——ペルセウス座から羊座にかけて彗星探しをやつたからです。此の彗星が、発見前、いかなる経路を取り、又光度が何等位であつたかは不明ですが、其の後の観測に依ると、毎日の運動は北東へ約 4° とのこと、故に逆にこの彗星の26日の位置を調べて見ますと、赤經 $4^{\text{h}}30^{\text{m}}$ 、赤緯 $+25^{\circ}$ あたりになり、私が26日に搜索をやつた區域は赤緯 $+50^{\circ}\sim+20^{\circ}$ 、赤經 $2^{\text{h}}\sim4^{\text{h}}$ でした。だから今一步——望遠鏡を備かに下に(東の方)へ動かしておれば該彗星が発見されて居たかも知れません。運が無かつたのだとは云ひません。只自分の努力が足りなかつたと思ひます。残念です。

七月31日

岡林生

神戸支部例会の豫定日

毎月第2金曜日です、時刻は18時、場所は元町四丁目三菱陳列場樓上、詳細は美田幹事に問い合わせして下さい。

八月11日、九月8日、十月13日、十一月10日、十二月8日

編輯室より：來年一月號(225號)の本誌は、全部を“1940年度の天文年鑑”として、最も斬新なる體裁と内容とを盛つた編輯ぶりとし、來年一ケ年中、最も便利よく使用し得るものとします。